

第 122 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2006 年 12 月 7 日(木) 16 時 30 分~18 時 00 分

場 所: 実習館 2 階総合歯科医学研究所セミナールーム

演 者: 永井 教之 氏

(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 口腔病理病態学分野・教授)

タイトル: 口腔病理病態学分野の研究戦略

現在,我々の研究室は4人(1人は外国人)の教員と11名の院生,留学生が所属しているが,そのうち8名は7カ国からの国費留学生となっている。

最近の主要テーマごとの概略は, 歯胚、歯原性腫瘍の分子生物学的研究: 歯原性腫瘍の分化・進展を上記プロセスで発現するmRNAレベル, 蛋白局在から考察する。口腔癌の分子病態と癌抑制遺伝子解析: 特に癌抑制遺伝子候補INGファミリーの解析を検討しているがこの為には, 新鮮手術材料を用いる必要があるので, 腫瘍バンク設置の(新鮮、凍結手術材料の収集)の要点を述べる。口腔悪性黒色腫の病態解析: 転移を生じやすい臨床的特性に対応したVascular Channel(腫瘍細胞構築による血管擬態化)の概念を検討している。骨組織再建における骨誘導: コラーゲンのカルボキシル基とBMPのアミノ基の化学結合, 固定化実験により, BMP-2 関与Smadシグナル系の持続化を証明し, 骨誘導の促進の為, BMPの固定化法を開発した。

新規インプラントコーティング材(CaTiO₃-C)の開発応用: チタン酸カルシウム非晶質炭素複合物(CaTiO₃-C)の合成法, コーティング法を開発した。これらのテーマによる研究実績としての論文は2004年26編, 2005年43編あり, さらに新規生体材料特許申請(2件)も為された。

学部レベルにおける教務、国際交流に関しての主な企画, 実施としては, 4期制カリキュラム改革(学部), ODAPUS(短期留学制度)(学部), 日韓サマーセミナー(ソウル大学)(学部), 中国東北部各大学との修士双方向学位制度の導入(予定)(岡山大学)などを行ってきた。

さらに, 我々は15年前より日本の基礎歯学研究者とともに英文誌 Journal of Hard Tissue Biology (http://www.htbiol.gr.jp/Japan/ind_j.html) を発行, 日本, 東アジアの情報を欧米へ発信している。

以上, 永井教授が進めてこられた『口腔病理病態学分野の研究戦略』について, 興味深いお話を伺うことが出来るものと期待している。

担当: 硬組織疾患制御再建学講座 川上 敏行